JAFスポーツWEB

2019年JAF近畿ダートトライアル選手権第1戦　2019年JMRC近畿ダートトライアルチャンピオンシリーズ第1戦
2019年JMRC全国オールスターダートトライアル選抜第1戦
2019年JMRC近畿ダートトライアルジュニアシリーズ第1戦　サンダース春［JAF公認No.2019-3201］

開催日：3月10日　開催場所：京都コスモスパーク　格式：準国内　主催：THUNDERS［クラブ登録No.加盟27006］

フォト＆レポート／山口貴利

石田祐輝ランサーが混戦の２本目で逆転優勝！

最多14台がエントリーしたS2クラスでは次々とベストタイムが更新される中、石田祐輝選手が唯一の1分30秒台を叩き出して1位となった。

S2クラス／1.寺岡知展選手は2ヒート目で約2.5秒も詰める好走を見せたが悔しい2位。**2.**3位表彰台には矢本裕之選手が登壇。**3.**クラス入賞の皆さん。

昨年は台風や大雨の影響で延期や中止が相次いだJAF近畿ダートトライアル選手権だが、2019年の開幕戦は昨年より2週間遅く、3月10日に京都コスモスパークにて開催された。今年も例年と同様、JAF地方選手権(JMRC近畿チャンピオンシリーズの併催)とJMRCジュニアシリーズの2本立て。参加台数は68台と、昨年並みの台数が集まった。

ジュニアシリーズのJ1クラスは、昨年のチャンピオン人見真弘選手が卒業して地方選手権へとステップアップ。今回のラストゼッケンはシリーズ3位の川口晴彦選手だ。しかし1ヒート目は苦戦。トップタイムを出したのはシリーズ4位だった藤本秀悠選手。2番手につけた井之上優選手に1秒以上の大差をつけていた。第2ヒートに入っても藤本選手のタイムは破られず、逃げ切りで優勝を決めた。

S1クラス／4.クラス入賞の皆さん。**5.**FTOを駆る竹中雅哉選手はコンマ7秒届かず2位。**6.**3位は眞砂徳亮選手。**7.**上土井康朗選手が昨年のチャンピオンの貫禄を見せて優勝。

8.RWDクラス優勝は久志本登喜男選手。**9.**千賀達也選手はRWDクラス2位。**10.**RWDクラス3位の高畑秀幸選手。**11.**執行信児選手はN1クラス2位。**12.**N1クラス3位の近藤範明選手。**13.**一宮頼人選手がN1クラスで優勝。**14.**N2クラス優勝は藤嶋義孝選手。**15.**木村剛士選手はN2クラス2位。**16.**N2クラス3位の清水孝憲選手。**17.**藤本秀悠選手がJ1クラスで優勝。**18.**J2クラス優勝は三浦陸選手。**19.**人見浩三選手がAE・PNクラスで優勝。**20.**Dクラス優勝は小川浩幸選手。**21.**井之上優選手はJ1クラス2位。**22.**J1クラス3位の執行翔太選手。**23.**粟倉直哉選手はJ2クラス2位。**24.**J2クラス3位の矢木野昌俊選手。**25.**RWDクラス入賞の皆さん。**26.**N1クラス入賞の皆さん。**27.**N2クラス入賞の皆さん。**28.**J1クラス入賞の皆さん。**29.**J2クラス入賞の皆さん。**30.**AE・PNクラス入賞の皆さん。**31.**Dクラス入賞の皆さん。

「1本目で切れた走りができた。初優勝なのでとても嬉しい」と喜びを語っていた。2位は第2ヒートはギヤトラブルでタイムアップできなかった井之上選手が入り、「次こそ」と悔やんでいた。3位は川口選手に割って入った執行翔太選手。昨年の最終戦に続く3位を喜んだ。

J2クラスはトップゼッケンの三浦陸選手が、昨年シリーズ3位の中村清二選手を第1ヒートで押さえトップタイムをマーク。第2ヒートに入ってもさらに1秒以上のタイムを上げてきた。結局このタイムを破る選手は現れず、三浦選手がダートラ初出場で初優勝を飾った。

「2本目は滑る路面を気持ちよく走っていてシフトミスもあったけれど、そこから気持ちを切り替えてタイムが出る走りに徹しました。昨年のジムカーナ最終戦で公式戦デビューしたので2連勝です。今年はジムカーナとダートラの両方でチャンピオンを狙います」と鼻息も荒かった。翌週に開催されたジムカーナも優勝しているだけに今年一番注目の選手となりそうだ。2位には4番手からジャンプアップした粟倉直哉選手で「かなりミスってたのでもっと練習します」と悔しがっていた。

地方選手権のN1クラスは昨年のチャンピオン一宮頼人選手が2位の執行信児選手に1秒半の差をつけて貫禄の優勝。「今年もチャンピオン狙います」と幸先の良いスタートを切った。2位の執行選手は息子のJ1クラス3位に対し、「嬉しい。なんとか息子のタイムに勝てた」と親子入賞を喜んでいた。

近畿独自のN2クラスはブーンとストーリアの小排気量四駆クラス。チャンピオンの辰巳浩一郎選手が不在で、シリーズ2位の藤嶋義孝選手が優勝し、「次も辰巳さんが出ないので今のうちにポイントを稼いでおかないと」と初タイトルに闘志を燃やしていた。

S1クラスはチャンピオン上土井康朗選手が第1ヒートのタイムで逃げ切りの優勝を果たしたが、「2本目は一宮選手のタイムを聞いて熱くなり空回りしてタイムダウンです」と苦笑いしていた。2位の竹中雅哉選手は「ブレーキとアクセルがバラバラでタイムを出せなかった」と反省していた。3位には「昨年の走りより良かったけれど3位は悔しい」と語る眞砂徳亮選手が入賞した。

S2クラスは第1ヒートでは全日本選手の矢本裕之選手を押しのけ、藤本隆選手がトップタイムをマークした。第2ヒートは各車とも大幅にタイムアップし、最終的には昨年度シリーズ2位の石田祐輝選手が、「2本目はウェットタイヤで走り、無難にまとめられました」と逆転優勝を喜んだ。2位は寺岡知展選手が入ったが、「ラインを外してしまいました。要修行です」とひとこと。矢本選手は3位で「路面とタイヤがマッチしなかった」とこちらも悔やまれるトライとなった。第1ヒートトップの藤本選手は「2本目はうまく走れたと思ったのに甘くないですね」と4位に終わった。

Dクラスは「コスモスは久しぶりです」と語った小川浩幸選手が優勝した。